

令和7年度 施策評価表 (令和6年度実績分)

【足立区子ども・子育て支援事業計画】

足立区教育委員会

子ども家庭部子ども政策課

はじめに

平成27年4月からスタートした「子ども・子育て支援新制度」に伴い、足立区においても第1期に引き続き、令和2年3月に「第2期足立区子ども・子育て支援事業計画」を策定いたしました。第1期の取り組みの成果や課題を踏まえ、「子育ての質の向上」と、支援が途切れないよう、「ライフステージ間のつながりの強化」を重要な視点とし、各計画とも連携しながら、切れ目のない支援による子育て環境の充実を目指し取り組んでいます。

第2期計画でも、令和6年度までに足立区が取り組むべき施策を定めるとともに、各年度毎に実績を評価していきます。

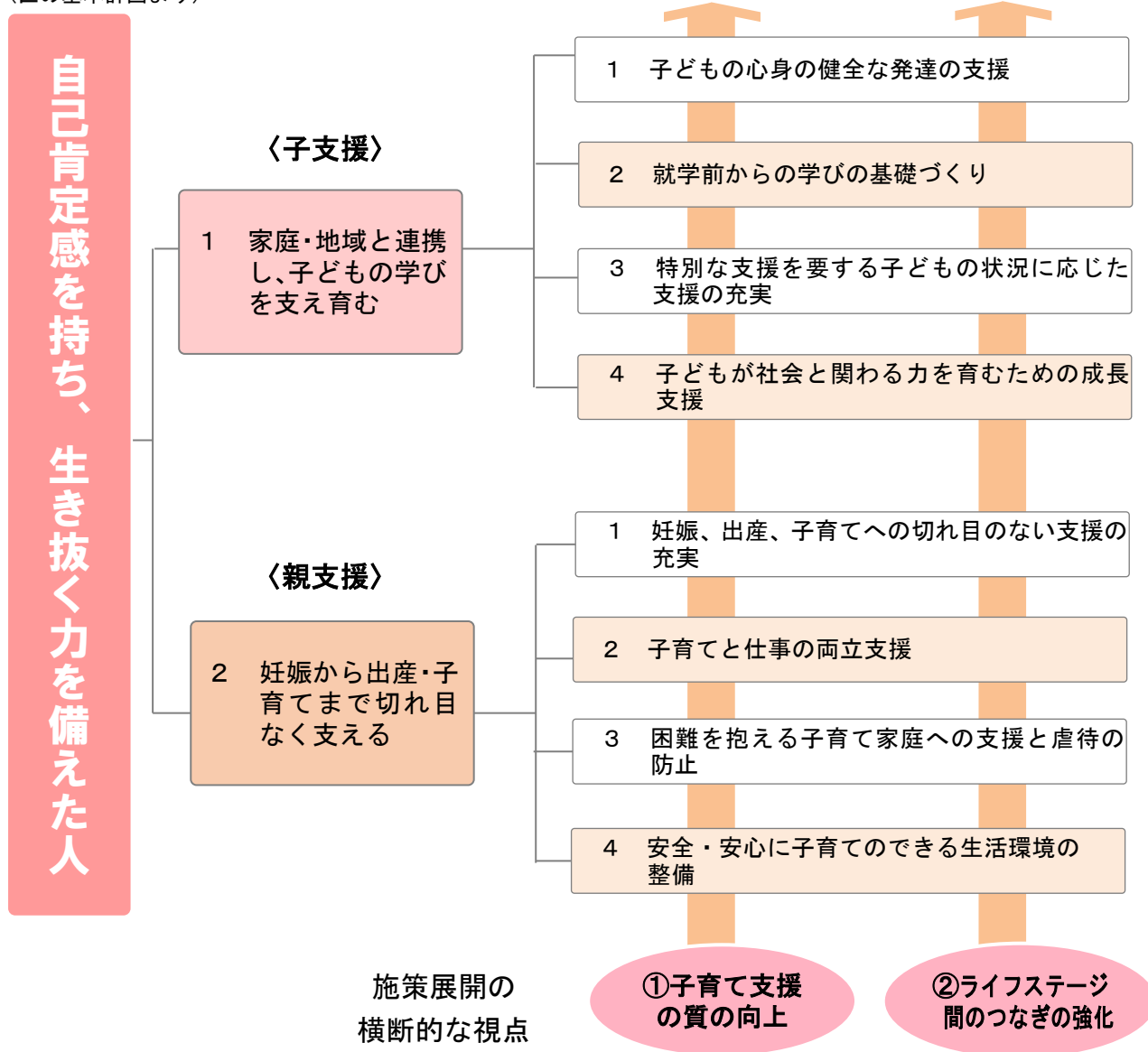
※計画の進捗状況の管理については、PDCA サイクルのもと対象事業の実施状況等について客観的かつ専門的な立場から意見交換、調査・審議を行います。

【子ども・子育て支援事業計画の体系】

[柱立て]
(区の基本計画より)

[施策群]

[施策]



●各施策別の総合評価一覧（兼 目次）

【施策群 1 家庭・地域と連携し、子どもの学びを支え育む】

施策（該当頁）	成果指標	令和 5 年度 総合評価 (5 点満点)	令和 6 年度 総合評価 (5 点満点)
1-1 (P 6) 子どもの心身の健全な発達の支援	早寝・早起き・朝ごはんを心がけるようになったと回答した方の割合	3.0	4.0
	1 日 3 食、野菜（おかず・汁物など）を食べる幼児の割合		
	「親子で絵本を読む」と回答した方の割合		
1-2 (P 8) 就学前からの学びの基礎づくり	指導検査で「文書指摘」または「口頭指導」となった項目が、次の巡回訪問等の際に改善されていた保育施設等の割合	5.0	4.0
	基本的生活習慣が身についている小学校 1 年生の割合		
1-3 (P 10) 特別な支援を要する子どもの状況に応じた支援の充実	相談児童数のうち、関係機関と連携できた割合	5.0	5.0
	発達支援児の行動上の課題が軽減した割合		
1-4 (P 12) 子どもが社会と関わる力を育むための成長支援	アンケートで「新しいことを知ったり、チャレンジしたい」と思った子どもの割合	5.0	4.0
	あだち放課後子ども教室利用者満足度		

【施策群 2 妊娠から出産・子育てまで切れ目なく支える】

施策（該当頁）	成果指標	令和 5 年度 総合評価 (5 点満点)	令和 6 年度 総合評価 (5 点満点)
2-1 (P 14) 妊娠、出産、子育てへの切れ目のない支援の充実	子育ては楽しいと感じる割合	4.0	5.0
	保育コンシェルジュへの相談が役にたった方の割合		
2-2 (P 16) 子育てと仕事の両立支援	保育需要に対する待機児童率【低減目標】	3.0	3.0
	学童保育室の待機児童率【低減目標】		
	「男女が対等な立場で意思表示や活動をすることができ、また責任を分かち合っている」と感じている区民の割合		
2-3 (P 18) 困難を抱える子育て家庭への支援と虐待の防止	児童虐待解決率	3.0	3.0
	高等職業訓練促進給付金受給後の正規雇用者数		
2-4 (P 20) 安全・安心に子育てのできる生活環境の整備	ユニバーサルデザイン推進計画の個別事業の評価点の平均値【子ども子育てに関係する事業】	4.0	5.0
	よく行く、または行きたい公園がある区民の割合		

【評価の流れ】

1 次評価（自己評価） P.4・5

各事業の担当課にて、①「施策の手段として位置付ける主な事務事業の進捗状況の活動指標」および②「成果指標」の評価を実施。

- ① 「施策の手段として位置付ける主な事務事業の進捗状況の活動指標」
 - 目標値を設定し、評価する年度の実績値を記載。
 - 施策への貢献度、今後の方針、実績が目標値に対してどの程度どのように達成されたかを分析し、【総合評価】（課長評価）に記載。
- ② 成果指標
 - 担当課において目標値を設定し、評価する年度の実績値を記載。施策評価、2つの視点「子育て支援の質の向上」「ライフステージ間のつながりの強化」を踏まえた今後の方向性を記載。



2 次評価（子ども家庭部による評価） P.4

- ① 重点プロジェクト事業の庁内ヒアリング（2次評価）に同席するなど、関連する事業についての情報を共有化。
- ② 各事業担当課による1次評価（自己評価）と上記①で共有化した情報などを踏まえ、子ども家庭部（子ども政策課）にて各事業の方向性等を以下の5段階で総合的に評価。
- ③ 評価点（5点満点） **5**（良い） $\longleftrightarrow$ **1**（悪い）
※ただし5段階評価によりがたい場合には、中間点（例：4.5等）を設ける場合がある



3 次評価（外部評価）

1次、2次評価の内容について、足立区地域保健福祉推進協議会（子ども支援専門部会含む）にて委員から意見を聴取

【1次評価、2次評価の一例】

1 施策の概要

担当課 子ども政策課

柱立て	自己肯定感を持ち、生き抜く力を備えた人
施策群	1 家庭・地域と連携し、子どもの学びを支え育む
施策	1-1 子どもの心身の健全な発達の支援
施策の方向	食育や歯科健診の取り組み、読書習慣、運動遊びなど、子どもの心と体の基盤となる生活習慣づくりを推進します。

2 成果指標

指標1	指標名	早寝・早起き・朝ごはんを心がけるようになったと回答した方の割合						
	定義	年1回取り組んだ保育園、保護者等に実施したアンケートで「早寝・早起き・朝ごはん」を心がけるようになったと回答した方の割合 ※令和4年度に令和6年度の目標値を65%から75%に変更 ※令和5年度に令和6年度の目標値を75%から90%に変更						
	単位	%	H30	R2	R3	R4	R5	R6
	目標値			65	65	73	90	90
	実績値		-	68.3	72.2	88.2	84.2	88.8
指標2	達成率			105%	111%	121%	94%	99%
	達成率							90%
	指標名	1日3食、野菜(おかず・汁物など)を食べる幼児の割合						
	定義	3歳児健康診査アンケートによる集計値(1日3食、野菜(おかず・汁物など)を食べると回答した件数／アンケートの回収件数)						
	単位	%	H30	R2	R3	R4	R5	R6
	目標値			33	36	39	42	45
	実績値		28.7	28.8	28.2	27.5	28.4	28.7
	達成率			87%	78%	71%	68%	64%
指標3	指標名	「親子で絵本を読む」と回答した方の割合						
	定義	4～5歳児を対象とした、生活・ベジタベアンケートで、「親子で絵本を読む」と回答した方の割合						
	単位	%	H30	R2	R3	R4	R5	R6
	目標値			76	77	78	79	80
	実績値		75.5	77.1	79.5	80	78	77.5
指標3	達成率			101%	103%	103%	99%	97%
	達成率							80%

1次評価
(自己評価)

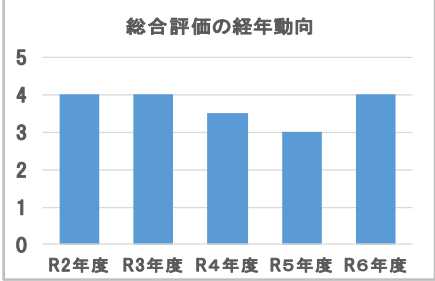
3 担当課における施策評価

【2つの横断的な視点】・子育て支援の質の向上
・ライフステージ間のつなぎの強化
子・子計画上の2つの視点を踏まえた今後の方向性

施策の達成状況とその要因分析	
【指標1】目標値を下回っているものの、達成率はほぼ100%となった。これまで継続して行ってきた各園や家庭での取り組みが、生活リズム定着の意識づけに繋がっていると考えられる。	【指標1】令和7年度から、就学前児童に配布する啓発物を2点(チェックブック・カレンダー)から1点(新規作成)に集約し、負担感の少ない新たな取り組みシートを作成する。新たな取り組みシートは、就学前児童が小学1年生になった際にも楽しんで取り組めるように、イラスト等をチェックブックと連動させる。
【指標2】令和6年度の実績値は前年度と比較して微増となった。1日3食、野菜を食べることの重要性は徐々に定着していると思われる。	【指標2】幼稚園や保育園向けの教室では、新型コロナウイルス感染症の影響により制限があったが徐々に回復している。引き続き野菜から食べるなど望ましい食習慣の定着を図っていく。
【指標3】実績値はほぼ横ばいである。生物園や都市農業公園など、区民の身近な場所に出向き、本の楽しさを伝える各種アウトリーチ事業や、保育園や児童館等でおはなし会の開催、綾瀬小学校「わくわく にこにこ 図書の森」での絵本の貸出やイベント実施等によって、絵本に親しむ機会は広がっていると考えられる。	【指標3】令和6年度に初めてプレママ・プレパパに向けた読み語りイベントを実施した。イベントでは子どもの発達段階に応じた適切な絵本を紹介し、出産後も親子で絵本を楽しむ機会の提供を行うことができたため、令和7年度以降も引き続き実施をしていく。

4 子ども家庭部における施策の総合評価

総合評価	①「早寝・早起き・朝ごはん」の取り組みは、子どもの良い生活習慣の定着につながっており、評価できる。今後も、各家庭や園の意見を参考にし、さらなる子どもの生活リズムの定着化を推進してほしい。
R6年度	②栄養士による継続的な巡回訪問や健康教室等の実施は、1日3食野菜を食べる幼児の割合を増やすきっかけとなり、良い食習慣の定着に繋がる。今後は、幼稚園や保育園での食育推進を可能な限り実施し、子どもの心と体の基盤となる望ましい食生活の習慣づくりを支援してほしい。
4	③絵本の引換率が低い1歳6か月児健診会場にて、絵本の配付方法を直接配付に変更し、引き換え数の大幅改善を実現しており評価できる。引き続き、アウトリーチ事業やイベント等により、親子で絵本を楽しむ機会を提供し、読書習慣の定着支援をしてほしい。



2次評価
(子ども家庭部による評価)

施策を構成する主な事務事業の進捗状況

	事業名	活動指標 (単位)	定義		R2	R3	R4	R5	R6
1	①早寝・早起き・朝ごはんの推進 【子ども政策課】	早寝・早起き・朝ごはんカレンダーの取り組み園数 (園数)	「早寝・早起き・朝ごはん」の取り組み園数 4、5歳児の在籍園 (現状値内訳) 区立保育園 認定こども園30園、私立保育園112園、公設民営保育園10園、認証保育所11園、私立幼稚園・私立認定こども園50園、 【 】内は対象園(全国)	目標値 実績値 達成率	170 [223] 93%	169 [221] 96%	174 [218] 90%	174 [217] 72%	174 [217] 0%
	施策への貢献度	今後の方針	【総合評価】 (課長評価) チェックブック(4週間版)は明確な目標が設定されていることなどから好評であり、カレンダーとチェックブックのどちらかを実施している園においてもチェックブックを選択する園が多い。一方で、カレンダー(1年間版)は取り組み期間が長いことから負担感を感じ実施を躊躇する園も一定数ある。 令和7年度からは、就学前児童に対する上記啓発物2点の配布を廃止し、新たな取り組みシートの作成を行う(令和6年度から作成・配布を廃止したことから、R6実績値は「0」)。						
	C	改善・変更							
2	②食育の推進事業 【子ども施設指導・支援課】	「ひと口目は野菜から」の取り組み園数 (園数)	「ひと口目は野菜から」の取り組み園数 4、5歳児の在籍園 (現状値内訳) 区立保育園 認定こども園30園、私立保育園110園、公設民営保育園14園、認証保育所10園、私立幼稚園・私立認定こども園50園、 【 】内は対象園(全国)	目標値 実績値 達成率	113 [221] 138%	168 [221] 99%	170 [218] 102%	180 [218] 97%	150 [201] 122%
	施策への貢献度	今後の方針	【総合評価】 (課長評価) 栄養士が各園の巡回訪問時に実施方法などの具体的な支援を継続的に行ったことで、実施施設は増加し、目標値を達成した。今後は実施園数が少ない私立幼稚園の支援強化の一環として、他部署実施の野菜教室と連携し、ひと口目は野菜から食べることの大切さを伝えていく。						
	A	現状維持							
3	③保健所での健康教育・食育の推進 【保健予防課】	3～4か月児健康診査、育児学級、健やか親子相談の実施回数 (回)	各保健センター等における乳幼児健康診査・育児学級及び住区センターにおける健やか親子相談の実施回数 【 】内は参加者数	目標値 実績値 達成率	638 [12,000] 32%	641 [11,920] 37%	644 [11,840] 73%	647 [11,760] 86%	650 [11,700] 93%
	施策への貢献度	今後の方針	【総合評価】 (課長評価) 3～4か月児健康診査は、昨年と同程度となった。育児学級と健やか親子相談は、新型コロナウイルス感染症の影響で、実施方法において一部制限が続いているため、目標値を大きく下回った。 引き続き、HPへの動画掲載や家庭への啓発用リーフレット配布などの工夫に加え、食育啓発の大切な機会である健康教室等で、今後も根気強く伝えていくことが重要と考えている。						
	B	現状維持							
4	④あだちっ子歯科健診 【子ども政策課】	歯科健診受診勧奨ハガキの送付者数(人)	初回の未通園者全員への歯科健診受診勧奨ハガキ送付及び未受診者に対する継続的な受診勧奨ハガキの送付等延べ送付人数 《【 】内は回数と対象者(送付人数)》 ※令和4年度より認可外保育施設集団健診開始のため、目標値の見直しを実施	目標値 実績値 達成率	1600 ①[750] ②[850] 1595 ①[747] ②[848] 100%	1900 ①[750] ②[450] 1742 ①[658] ②[367] 92%	1150 ①[550] ②[650] 1323 ①[634] ②[689] 115%	650 ①[650] 633 ①[633] 97%	600 ①[600] 616 ①[616] 103%
	施策への貢献度	今後の方針	【総合評価】 (課長評価) 「受診票一式」を送付した約1か月後に、受診済者を除いた対象者に再勧奨ハガキを送付しているが、受診者数の増加および受診しない理由の把握への効果は薄い。今後は、初回の封筒による送付物を見直す等、より効果的な勧奨方法を検討していく。						
	A	現状維持							
5	⑤図書館のアウトリーチ事業 【中央図書館】	実施回数(回)	図書館に來ない人・來られない人に対して実施した読書活動推進事業の回数 《【 】内は参加延べ人数》 ※令和4年度より読書活動推進事業の回数を、読み語りイベントだけでなく出張による特集展示や貸出などの回数を含めた	目標値 実績値 達成率	10 [360] 50%	20 [720] 50%	30 [1,080] 347%	120 [2,000] 213%	200 [2,500] 132%
	施策への貢献度	今後の方針	【総合評価】 (課長評価) 昨年度と比較してアウトリーチ事業の回数が増加し、目標値を上回った。生物園での紙芝居ショー(興本)や都市農業公園での出張図書館(鹿浜)などを積極的に実施し、図書館に來ない人・來られない人に向けて、まちで本にふれ読書の楽しさを知る場所を提供することができ、多くの区民に読書に触れる機会の提供を行うことができた。						
	A	改善・変更							
6	⑥あだちはじめてえほん 【中央図書館】	絵本を受け取った人数(1歳6か月児)(人)	1歳6か月児健診時に区内図書館等で絵本を引き換えた人数 《【 】内は全健診対象者》	目標値 実績値 達成率	3745 [5,350] 83%	3745 [4,818] 72%	3,800 [4,724] 79%	3,850 [4,724] 75%	3,900 [4,589] 86%
	施策への貢献度	今後の方針	【総合評価】 (課長評価) 昨年度よりも引換数、引換率ともに増加したものの、目標値を下回った。健診会場の近くに引換施設がない中央本町及び東部保健センターの引換率が低迷していたため、令和6年4月から、当該2センターにて直接配付を開始し、当該2センターの引換率が大幅に改善した。引換方法は当面現在の運用を継続していきながら、引き続き引換率の向上を図っていく。						
	A	現状維持							

1次評価
(自己評価)

施策への貢献度 A: 高い B: 中位 C: 低い

施策群 1

家庭・地域と連携し、
子どもの学びを支え育む



施策【1-1】

1 施策の概要

担当課 子ども政策課

柱立て	自己肯定感を持ち、生き抜く力を備えた人
施策群	1 家庭・地域と連携し、子どもの学びを支え育む
施策	1-1 子どもの心身の健全な発達の支援
施策の方向	食育や歯科健診の取り組み、読書習慣、運動遊びなど、子どもの心と体の基盤となる生活習慣づくりを推進します。

2 成果指標

指標1	指標名	早寝・早起き・朝ごはんを心がけるようになったと回答した方の割合						
	定義	年1回取り組んだ保育園、保護者等に実施したアンケートで「早寝・早起き・朝ごはん」を心がけるようになったと回答した方の割合 ※令和4年度に令和6年度の目標値を65%から75%に変更 ※令和5年度に令和6年度の目標値を75%から90%に変更						
	単位	%	H30	R2	R3	R4	R5	R6
	目標値			65	65	73	90	90
	実績値		-	68.3	72.2	88.2	84.2	88.8
指標2	達成率			105%	111%	121%	94%	99%
	目標値							90%
	定義	1日3食、野菜(おかず・汁物など)を食べる幼児の割合						
	単位	%	H30	R2	R3	R4	R5	R6
	目標値			33	36	39	42	45
指標3	実績値		28.7	28.8	28.2	27.5	28.4	28.7
	達成率			87%	78%	71%	68%	64%
	目標値							45%
	定義	4～5歳児を対象とした、生活・ベジタベアンケートで、「親子で絵本を読む」と回答した方の割合						
	単位	%	H30	R2	R3	R4	R5	R6
指標4	目標値			76	77	78	79	80
	実績値		75.5	77.1	79.5	80	78	77.5
	達成率			101%	103%	103%	99%	97%
	目標値							80%
	定義	「親子で絵本を読む」と回答した方の割合						

3 担当課における施策評価

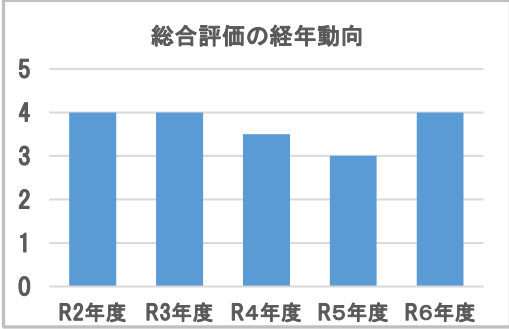
【2つの横断的な視点】・子育て支援の質の向上
・ライフステージ間のつなぎの強化

施策の達成状況とその要因分析
【指標1】目標値を下回っているものの、達成率はほぼ100%となった。これまで継続して行ってきた各園や家庭での取り組みが、生活リズム定着の意識づけに繋がっていると考えられる。
【指標2】令和6年度の実績値は前年度と比較して微増となった。1日3食、野菜を食べることの重要性は徐々に定着していると思われる。
【指標3】実績値はほぼ横ばいである。生物園や都市農業公園など、区民の身近な場所に出向き、本の楽しさを伝える各種アウトリーチ事業や、保育園や児童館等でのおはなし会の開催、綾瀬小学校「わくわく にこにこ 図書の森」での絵本の貸出やイベント実施等によって、絵本に親しむ機会が広がっていると考えられる。

【2つの横断的な視点】・子育て支援の質の向上 ・ライフステージ間のつなぎの強化
子・子計画上の2つの視点を踏まえた今後の方向性
【指標1】令和7年度から、就学前児童に配布する啓発物を2点(チェックブック・カレンダー)から1点(新規作成)に集約し、負担感の少ない新たな取り組みシートを作成する。新たな取り組みシートは、就学前児童が小学1年生になった際にも楽しんで取り組めるように、イラスト等をチェックブックと連動させる。
【指標2】幼稚園や保育園向けの教室では、新型コロナウイルス感染症の影響により制限があったが徐々に回復している。引き続き野菜から食べるなど望ましい食習慣の定着を図っていく。
【指標3】令和6年度に初めてプレママ・プレパパに向けた読み語りイベントを実施した。イベントでは子どもの発達段階に応じた適切な絵本を紹介し、出産後も親子で絵本を楽しむ機会の提供を行うことができたため、令和7年度以降も引き続き実施をしていく。

4 子ども家庭部における施策の総合評価

総合評価	①「早寝・早起き・朝ごはん」の取り組みは、子どもの良い生活習慣の定着につながっており、評価できる。今後も、各家庭や園の意見を参考にし、さらなる子どもの生活リズムの定着化を推進してほしい。
R6年度	②栄養士による継続的な巡回訪問や健康教室等の実施は、1日3食野菜を食べる幼児の割合を増やすきっかけとなり、良い食習慣の定着に繋がる。今後は、幼稚園や保育園での食育推進を可能な限り実施し、子どもの心と体の基盤となる望ましい食生活の習慣づくりを支援してほしい。
4	③絵本の引換率が低い1歳6か月児健診会場にて、絵本の配付方法を直接配付に変更し、引き換え数の大幅改善を実現しており評価できる。引き続き、アウトリーチ事業やイベント等により、親子で絵本を楽しむ機会を提供し、読書習慣の定着支援をしてほしい。



施策を構成する主な事務事業の進捗状況

	事業名	活動指標（単位）	定義		R2	R3	R4	R5	R6
1	①早寝・早起き・朝ごはんの推進【子ども政策課】	早寝・早起き・朝ごはんカレンダーの取り組み園数（園数）	「早寝・早起き・朝ごはん」の取り組み園数 4. 5歳児の在籍園 （現状値内訳）区立保育園・認定こども園30園、私立保育園112園、公設民営保育園15園、認証保育所11園、私立幼稚園・私立認定こども園50園、 《【】内は対象園（全園）》	目標値	170 【223】	169 【221】	174 【218】	174 【217】	174 【217】
				実績値	158 【223】	162 【221】	156 【218】	126 【218】	0 【216】
				達成率	93%	96%	90%	72%	0%
2	②食育の推進事業【子ども施設指導・支援課】	「ひと口目は野菜から」の取り組み園数（園数）	「ひと口目は野菜から」の取り組み園数 4. 5歳児の在籍園 （現状値内訳）区立保育園・認定こども園30園、私立保育園110園、公設民営保育園14園、認証保育所10園、私立幼稚園・私立認定こども園50園 《【】内は対象園（全園）》	目標値	113 【221】	168 【221】	170 【218】	180 【218】	150 【201】
				実績値	156 【221】	167 【221】	174 【218】	175 【214】	183 【214】
				達成率	138%	99%	102%	97%	122%
3	③保健所での健康教育・食育の推進【保健予防課】	3～4か月児健康診査、育児学級、健やか親子相談の実施回数（回）	各保健センター等における乳幼児健康診査・育児学級及び住区センターにおける健やか親子相談の実施回数 《【】内は参加者数》	目標値	638 【12,000】	641 【11,920】	644 【11,840】	647 【11,760】	650 【11,700】
				実績値	206 【4,257】	237 【3,819】	472 【5,758】	555 【5,885】	604 【6,400】
				達成率	32%	37%	73%	86%	93%
4	④あだちっ子歯科健診【子ども政策課】	歯科健診受診勧奨ハガキの送付者数（人）	初回の未通園者全員への歯科健診受診勧奨ハガキ送付及び未受診者に対する継続的な受診勧奨ハガキの送付等延べ送付人数《【】内は回数と対象者（送付人数）》 ※令和4年度より認可外保育施設集団健診開始のため、目標値の見直しを実施	目標値	1600 ①【750】 ②【850】	1900 ①【750】 ②【450】 ③【700】	1150 ①【550】 ②【650】	650 ①【650】	600 ①【600】
				実績値	1595 ①【747】 ②【848】	1742 ①【658】 ②【367】 ③【717】	1323 ①【634】 ②【689】	633 ①【633】	616 ①【616】
				達成率	100%	92%	115%	97%	103%
5	⑤図書館のアウトリーチ事業【中央図書館】	実施回数（回）	図書館に來ない人・來られない人に対して実施した読書活動推進事業の回数《【】内は参加延べ人数》 ※令和4年度より読書活動推進事業の回数を、読み語りイベントだけでなく出張による特集展示や貸出などの回数を含めた	目標値	10 【360】	20 【720】	30 【1,080】	120 【2,000】	200 【2,500】
				実績値	5 【576】	10 【620】	104 【1,645】	255 【9,355】	264 【4,319】
				達成率	50%	50%	347%	213%	132%
6	⑥あだちはじめてえほん【中央図書館】	絵本を受け取った人数（1歳6か月児）（人）	1歳6か月児健診時に区内図書館等で絵本を引き換えた人数 《【】内は全健診対象者》	目標値	3745 【5,350】	3745 【4,818】	3,800 【4,724】	3,850 【4,724】	3,900 【4,589】
				実績値	3120 【5,350】	2687 【4,818】	2,996 【4,724】	2875 【3,921】	3359 【4,068】
				達成率	83%	72%	79%	75%	86%
	施策への貢献度	今後の方針	【総合評価】（課長評価）						
	C	改善・変更	チェックブック（4週間版）は明確な目標が設定されていることなどから好評であり、カレンダーとチェックブックのどちらかを実施している園においてもチェックブックを選択する園が多い。一方で、カレンダー（1年間版）は取り組み期間が長いことから負担感を感じ実施を躊躇する園も一定数ある。令和7年度からは、就学前児童に対する上記啓発物2点の配布を廃止し、新たな取り組みシートの作成を行う（令和6年度から作成・配布を廃止したことから、R6実績値は「0」）。						
	A	現状維持	栄養士が各園の巡回訪問時に実施方法などの具体的な支援を継続的に行ったことで、実施施設は増加し、目標値を達成した。今後は実施園数が少ない私立幼稚園の支援強化の一環として、他部署実施の野菜教室と連携し、ひと口目は野菜から食べることの大切さを伝えていく。						
	施策への貢献度	今後の方針	【総合評価】（課長評価）						
	B	現状維持	3～4か月児健康診査は、昨年と同程度となった。育児学級と健やか親子相談は、新型コロナウイルス感染症の影響で、実施方法において一部制限が続いているため、目標値を大きく下回った。引き続き、HPへの動画掲載や家庭への啓発用リーフレット配布などの工夫に加え、食育啓発の大切な機会である健康教室等で、今後も根気強く伝えていくことが重要と考えている。						
	A	現状維持	「受診票一式」を送付した約1か月後に、受診済者を除いた対象者に再勧奨ハガキを送付しているが、受診者数の増加および受診しない理由の把握への効果は薄い。今後は、初回の封筒による送付物を見直す等、より効果的な勧奨方法を検討していく。						
	施策への貢献度	今後の方針	【総合評価】（課長評価）						
	A	改善・変更	昨年度と比較してアウトリーチ事業の回数が増加し、目標値を上回った。生物園での紙芝居ショー（興本）や都市農業公園での出張図書館（鹿浜）などを積極的に実施し、図書館に來ない人・來られない人に向けて、まちで本にふれ読書の楽しさを知る場所を提供することができ、多くの区民に読書に触れる機会の提供を行うことができた。						
	A	現状維持	昨年度よりも引換数、引換率ともに増加したものの、目標値を下回った。健診会場の近くに引換施設がない中央本町及び東部保健センターの引換率が低迷していたため、令和6年4月から、当該2センターにて直接配付を開始し、当該2センターの引換率が大幅に改善した。引換方法は当面現在の運用を継続していきながら、引き続き引換率の向上を図っていく。						

施策への貢献度 A: 高い B: 中位 C: 低い

施策【1-2】

1 施策の概要

		担当課	子ども施設指導・支援課
柱立て	自己肯定感を持ち、生き抜く力を備えた人		
施策群	1 家庭・地域と連携し、子どもの学びを支え育む		
施策	1-2 就学前からの学びの基礎づくり		
施策の方向	乳幼児期の教育・保育内容の質の向上により、小学校教育へつながる子どもたちの学びの基礎づくりを推進します。		

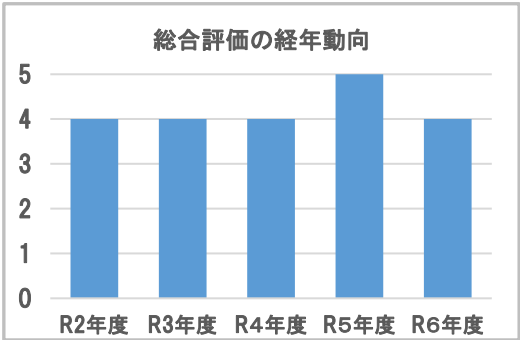
2 成果指標

指標1	指標名	※1 指導検査で「文書指摘」または「口頭指導」となった項目が、次の※2 巡回訪問等の際に改善されていた保育施設等の割合							
	定義	(算出式) A÷B ※令和2年度から指標名の実地調査を巡回訪問等に変更 A:改善されていた保育施設等の総数 B:指導検査で「文書指摘」または「口頭指導」となった保育施設等の総数							
	単位	%	H30	R2	R3	R4	R5	R6	R6
	目標値			100	100	100	100	100	目標値
	実績値		100	100	100	100	99	99	100%
	達成率			100%	100%	100%	99%	99%	
※1 指導検査 法令等に基づく指導 ※2 巡回訪問 指導検査で指摘等を受けた内容の確認や施設からの相談対応及び保育観察などの寄り添い支援									
指標2	指標名	基本的生活習慣が身につけている小学校1年生の割合							
	定義	基本的生活習慣(挨拶や返事・姿勢良く座る・静かに話を聞く)が身につけている1年生の人数÷1年生の児童総数 ※転出入を含む新1年生が対象のため、各年度90%を目標としていきます。							
	単位	%	H30	R2	R3	R4	R5	R6	R6
	目標値			90	90	90	90	90	目標値
	実績値		90.6	88.4	86.9	87.8	89.8	86.6	90%
	達成率			98%	97%	98%	100%	96%	

3 担当課における施策評価

施策の達成状況とその要因分析		子・子計画上の2つの視点を踏まえた今後の方向性	
【指標1】令和6年度に指導検査を実施した142施設のうち「文書指摘」を37施設、「口頭指導」を79施設に発した(文書指摘と口頭指導の重複施設あり)。1施設が書類の修正を継続中のため、目標をわずかに下回った。 【指標2】4月に入学した小学校1年生の児童を対象に行ったアンケートでは、基本的生活習慣が身につけている1年生の割合は86.6%(令和7年5月中旬集計予定)であり、概ね目標どおりであった。小学校教員と就学前施設の保育者を対象に行う接続期教育研修会に加え、保育者に対して教育・保育力向上研修を31回実施し、幼保小連携活動の推進及び教育・保育内容の質向上を図った結果、基本的生活習慣の獲得につながった。		【指標1】子どもたちがどの教育・保育施設に通っても、一定レベルの教育・保育サービスが受けられるよう、計画的に指導検査及び巡回訪問を実施し、施設に対しきめの細かい指導・支援を継続していく。 【指標2】今後も引き続き、子どもたちに必要な体験が実現できるように、接続期教育研修に加え、教育・保育力向上研修を実施していく。また、子どもたちが幼児教育から小学校教育へ滑らかな接続ができるよう、幼保小連携活動を推進し、互いの教育・保育の理解を深め、子どもの育ちにつなげていく。	

総合評価	①指導検査及び巡回訪問により、保育施設等に対して様々な支援を行い、教育・保育の質を維持しており評価できる。今後も、計画的に事業を実施し、さらなる教育・保育の質の向上に努めてほしい。
R6年度	②実績値は目標に達していないが、継続的な各研修の実施により、幼保小連携活動の推進や教育・保育内容の質向上を図り、着実に子どもたちの基本的生活習慣の定着に繋げている。今後も、幼保小連携活動を推進し、小学校教育へつながる学びの基礎を作ってほしい。
4	



施策を構成する主な事務事業の進捗状況

事業名		活動指標（単位）	定義		R2	R3	R4	R5	R6
7	①教育・保育の質の維持・向上事業【子ども施設指導・支援課】	子ども・子育て支援法に基づく指導検査または巡回訪問等を実施した特定教育・保育施設等の割合（％）	(算出式) $A \div B$ A: 当該年度に指導検査または巡回訪問のいずれかを実施した保育施設等の数(計355) B: 保育施設等の数(計355) 《【 】内は保育施設等の数》	目標値	97	100	100	100	100
					【333】	【332】	【350】	【347】	【371】
				実績値	100	99.7	99.7	100	99.7
					【344】	【331】	【349】	【355】	【370】
				達成率	103%	99.7%	99.7%	100.0%	99.7%
7	施策への貢献度	今後の方針	指導検査を168施設(私立認可58施設、小規模14事業所、家庭的保育44事業者、幼稚園・子ども園8施設、認可外2施設、認証16施設、支援法未移行への集団指導26施設)で実施及び巡回訪問を370施設(私立認可113施設、小規模26事業所、家庭的保育88事業者、幼稚園・子ども園36園、認証33施設、認可外29施設、区立直営園30園、公設民営15園)実施。令和5年度から認証保育所に対する実地の指導検査を実施した。事故の確認等のための実地調査を含む巡回訪問は延べ641回実施し、教育・保育の質の維持・向上に努めていることは評価できる。令和7年度も計画的な実施に努めていく。						
	A	現状維持	【総合評価】(課長評価)						
8	②就学前教育の推進【子ども施設指導・支援課】	年齢別研修のうち、集合研修(運動)の参加人数	年齢別研修のうち、集合研修(運動)への参加職員数(保育士、幼稚園教諭) 目標数＝参加職員数(※研修定員数の7割程度を想定) 《【 】内は定員数》	目標値	420	420	420	420	420
					【600】	【600】	【600】	【600】	【600】
				実績値	355	367	350	290	411
					【600】	【600】	【600】	【600】	【600】
				達成率	85%	87%	83%	69%	98%
8		幼保小連携ブロック会議におけるあだち幼保小接続期カリキュラムの活用割合（％）	幼保小連携ブロック会議におけるあだち幼保小接続期カリキュラムの活用割合 《【 】内はブロック数》 ※令和3年度からブロック会議に交流活動含む	目標値	100	100	100	100	100
					【13】	【13】	【13】	【13】	【13】
				実績値	0	100	100	100	100
					【13】	【13】	【13】	【13】	【13】
				達成率	0%	100%	100%	100%	100%
8	施策への貢献度	今後の方針	年齢別研修のうち、集合研修(運動)の参加人数は411人であり、概ね目標どおりだった。令和5年度と比較すると、大幅に参加人数が増加した。増加要因として、モデル事業を通して日本体育大学と作成した「こども主体の保育のための指導計画」基に研修を実施したことが増加要因として挙げられる。今後は、学識経験者と研修内容を精査しながら継続していく。幼保小接続期カリキュラムについては、多様なプログラムの提供が進み全13ブロックの中でより実態に合った活用の定着をした事は評価できる。						
	A	現状維持	【総合評価】(課長評価)						

施策への貢献度 A: 高い B: 中位 C: 低い

施策【1-3】

1 施策の概要		担当課	支援管理課
柱立て	自己肯定感を持ち、生き抜く力を備えた人		
施策群	1 家庭・地域と連携し、子どもの学びを支え育む		
施策	1-3 特別な支援を要する子どもの状況に応じた支援の充実		
施策の方向	発達障がいなど様々な悩みや課題を抱える子どもたちが、それぞれの特性に応じた支援が受けられるように、支援体制を充実します。		

2 成果指標

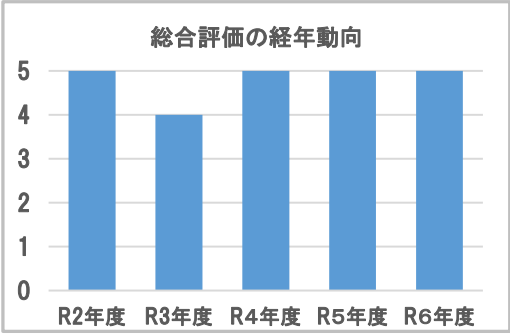
指標1	指標名	相談児童数のうち、関係機関と連携できた割合						
	定義	支援管理課で相談を受けた児童の特性を捉え、保護者同意のもと、必要に応じ関係機関と連携ができた割合 (相談連携件数÷連携が必要な相談件数)						
	単位	%	H30	R2	R3	R4	R5	R6
	目標値			97	98	98	98	98
	実績値		90	97	98	98	98	97
	達成率			100%	100%	100%	100%	99%
指標2	指標名	発達支援児の行動上の課題が軽減した割合						
	定義	前年度に引き続き発達支援委員会で判定を受けた児童の内、保育現場での配慮を行ったことで、支援の程度が軽減若しくは現状維持したと判定された児童の割合 (支援軽減・維持人数÷継続支援児童数)						
	単位	%	H30	R2	R3	R4	R5	R6
	目標値			95	95	96	96	95
	実績値		89	95	96	97	91	98
	達成率			100%	101%	101%	95%	103%

3 担当課における施策評価

【2つの横断的な視点】・子育て支援の質の向上 ・ライフステージ間のつなぎの強化	
子・子計画上の2つの視点を踏まえた今後の方向性	
施策の達成状況とその要因分析	【指標1】相談件数の増加に伴い相談員がフォロー電話や面接する時間も増加しているため、フォロー体制を更に充実していく必要がある。 【指標2】発達支援児について、保育の中での発達特性に応じたかかり方や支援の手法を就学後にもつなげていけるよう、必要に応じて園生活支援シート(個別支援計画)の情報を引き続き小学校と共有していく必要がある。
【指標1】来所相談以降も相談員による定期的なフォロー電話や必要に応じて面接を行い、保護者の不安軽減に努めたことで適切な支援機関に繋げることができた。保護者の同意のもと、関係機関とも連携を図り、関わり方の手法を伝えることにも努めた。 【指標2】発達支援委員会で判定を受けた児童に対し、保育者が園生活支援シート(個別支援計画)を作成している。専門職(心理判定士、作業療法士、言語聴覚士)と保育者とが連携し発達特性に応じたかかり方を確認・実施することで、問題行動の軽減につながり発達支援児保育推進の一助となっている。 ※【活動指標】3歳児健康診査実施回数の令和5年度実績値について、実施回数に誤りがあり、125回ではなく実際は134回であった。	

4 子ども家庭部における施策の総合評価

総合評価	①来所相談後も保護者の不安に寄り添う丁寧なフォローをすることで、関係機関との円滑な連携に繋がっており、児童の特性に合わせた関わり方のアドバイスをしていることも評価できる。子どもたちが抱える様々な悩みや課題軽減のため、今後も丁寧な対応で保護者の理解を得て、適切な支援機関につなげてほしい。
R6年度	
5	②個別支援計画の活用や保育者と専門職の連携によって、発達支援児の問題行動の軽減ができている。引き続き、保護者を含めて連携を行い、発達特性に応じた関わり方を確認しながら実施してほしい。さらに、個別支援計画を就学後に活用できるよう小学校と連携して支援体制の充実を図ってほしい。



施策を構成する主な事務事業の進捗状況

	事業名	活動指標（単位）	定義		R2	R3	R4	R5	R6
9	①発達支援児の早期発見・早期支援の取り組み【保健予防課】	3歳児健康診査実施回数（回）	各保健センター等における3歳児健康診査の実施回数 《【】内は受診者数》	目標値	125	125	125	125	125
					【5,000】	【4,870】	【4,730】	【4,600】	【4,460】
				実績値	114	101	136	134	135
					【4,684】	【3,925】	【5,042】	【4,159】	【4,121】
				達成率	91%	81%	109%	107%	108%
10	②乳幼児経過観察健康診査・乳幼児療育指導【保健予防課】	乳幼児経過観察健康診査実施回数（回）	各保健センター等における乳幼児経過観察健康診査の実施回数 《【】内は受診者数》	目標値	78	78	79	79	80
					【776】	【782】	【788】	【794】	【800】
				実績値	65	63	73	76	73
					【435】	【390】	【452】	【459】	【423】
				達成率	83%	81%	92%	96%	91%
11	③発達支援児の総合的な支援【支援管理課】	相談児童数（人）	こども支援センターげんきへの来所・電話相談、保健センターでの相談、就学前施設での相談（巡回指導、発達支援相談、4歳児対象の気づきのしぐみの相談）で受理した児童の延べ人数	目標値	4,320	4,300	4,300	4,300	4,300
				実績値	4255	4273	4469	5885	6105
				達成率	98%	99%	104%	137%	142%
12	④従事職員のスキルアップ研修【支援管理課】	実施回数（回）	講座実施回数 《【】内は延べ参加者数》	目標値	10	12	12	12	10
					【800】	【1,100】	【1,100】	【1,100】	【900】
				実績値	10	12	12	12	12
					【1,066】	【888】	【1,081】	【626】	【153】
				達成率	100%	100%	100%	100%	120%
	施策への貢献度	今後の方針	【総合評価】 （課長評価）	コロナ禍でも、3歳児健康診査を継続した。令和6年度は、実施回数の目標を達成し、受診率は95.8%で昨年度から微増だった。3歳児健康診査は、法定の健診として発達に課題のある子どもを早期・確実に発見し、つないでいく重要な役割を果たしている。					
	施策への貢献度	今後の方針	【総合評価】 （課長評価）	コロナ禍でも、乳幼児経過観察健康診査を継続した。令和6年度の実施回数及び受診者数は微減であるが、横ばいで推移している。こども支援センターげんきと連携し、心身の発育・発達などに不安のある乳幼児の相談事業にげんきの心理士の派遣を行っている。心理相談や療育相談の結果から、継続的に関わることで保護者の受け止めや理解を促し、適切な支援につないでいる。					
	施策への貢献度	今後の方針	【総合評価】 （課長評価）	専門職を派遣している保健センターの子ども相談、就学前施設での相談、4歳児対象の気づきのしぐみでの個別相談により、保護者の子育て不安に寄り添い具体的に助言することで、来所・電話相談にも繋げることができた結果、発達支援事業全体としての相談件数の増加に繋がった。必要に応じ、保護者の同意のもと就学先や関係機関との連携を図ることができた。					
	施策への貢献度	今後の方針	【総合評価】 （課長評価）	キャリアアップ研修の受講者数の減少については、他自治体主催やオンライン研修などの開催も増加し受講スタイルの選択肢が増えていることも要因となっている（足立区以外の主催研修で受講修了した方も増加している）。今後は、より保育現場に活用できる研修内容を検討し、発達障がい専門研修を充実させていく。					

施策への貢献度 A:高い B:中位 C:低い

施策【1-4】

1 施策の概要

担当課 青少年課

柱立て	自己肯定感を持ち、生き抜く力を備えた人
施策群	1 家庭・地域と連携し、子どもの学びを支え育む
施策	1-4 子どもが社会と関わる力を育むための成長支援
施策の方向	家庭や地域と連携しながら、様々な学び、体験の場を広げ、子どもたちが自らの可能性を見つけ、伸ばしていけるよう支援します。

2 成果指標

指標1	指標名	アンケートで「新しいことを知ったり、チャレンジしたい」と思った子どもの割合							
	定義	体験教室に参加した子どもや来館した子どもへのアンケートで「今回の体験をとおして、これからも新しいことを知ったり、チャレンジしたいと思った」と回答した子どもの割合 [青少年課体験教室の参加割合とギャラクシティ体験活動の参加割合の平均]							
	単位	%	H30	R2	R3	R4	R5	R6	R6
	目標値			90	90	90	90	90	目標値
	実績値		-	88	82	87	87.4	88.7	90%
	達成率			98%	91%	97%	97%	99%	
指標2	指標名	あだち放課後子ども教室利用者満足度							
	定義	参加児童に対するアンケート調査で、放課後子ども教室に参加することが「楽しい」「少し楽しい」と答えた児童の割合							
	単位	%	H30	R2	R3	R4	R5	R6	R6
	目標値			99	99	99	99	99	目標値
	実績値		99	99	99	99	99	96	99%
	達成率			100%	100%	100%	100%	97%	

3 担当課における施策評価

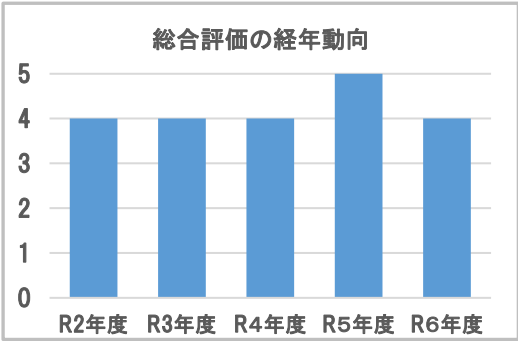
【2つの横断的な視点】・子育て支援の質の向上
・ライフステージ間のつなぎの強化

施策の達成状況とその要因分析	
【指標1-ギャラクシティ体験活動】	前年の実績を上回った。ギャラクシティ30周年記念事業として、今までの体験や学びの機会に加え、アルプスの少女ハイジへの舞台出演等新たな事業も行い、子どもたちが体験活動に参加して好奇心を育てる機会を増やすことができた。
【指標1-体験教室】	各大学の特色を活かした講座を開催し、実施にあたっては過去の参加者のアンケート結果に基づき、より児童・生徒の興味関心に沿った事業となるよう改善を行った。また、「子どもたちの興味関心に気づききっかけづくり」を中心とした講座に加え、新たに「より高度な分野を学び、自身の興味関心を深める」ことを目的とした新規講座を実施。その結果、目標の9割を達成することができた。
【指標2】	令和5年度と比較して数値は下がったものの、依然、高い満足度を示している。児童からは、体を動かして遊ぶことが増えた(56.7%)、他のクラスや違う学年の友達と遊ぶ機会が増えた(54.8%)、新しい遊びや体験ができた(45.3%)などの声があり、放課後子ども教室のねらいである「運動能力や体力の向上」「異学年交流」などの成果と考える。

子・子計画上の2つの視点を踏まえた今後の方向性	
【指標1-ギャラクシティ体験活動】	子どもたちが文化芸術に関心を持ち、自己肯定感を高められる事業の実施と、地域文化倶楽部やGがくえんなど小学生から高校生までのライフステージの変化に対応したギャラクシティでの学び、体験の場を提供していく。
【指標1-体験教室】	児童生徒の興味関心が児童を取り巻く環境によって変化していくことから、より児童・生徒のニーズに沿った事業となるよう、引き続き大学事務局との連携を密に行い、参加者のアンケート結果等に基づいた新規事業の企画・実施や既存事業の改善を図っていく。
【指標2】	児童の健やかな成長と学びのため、地域の方々の協力を得ながら放課後の安全・安心な居場所を提供していく。また、児童の自己肯定感を高めるため、引き続き体験・交流活動の機会を増やすとともに、内容の充実を図っていく。

4 子ども家庭部における施策の総合評価

総合評価	①大学との連携による新規講座等各プログラムや、ギャラクシティ30周年を迎えるにあたり様々な体験活動の提供は、参加した子どもたちの学びや可能性を伸ばす支えとなっており、評価できる。引き続き、子どものニーズを捉えつつ多様な体験活動の機会を提供してほしい。
R6年度	②学校や実行委員会との実施内容拡充に向けた話し合いを着実にを行い、高い利用者満足度を維持しており評価できる。例年と比較して満足度が低下した理由やニーズの変化を分析・改善し、今後も様々な学びや体験、交流活動の機会を通して、子どもたちが社会と関わり成長していくための支援を続けてほしい。
4	



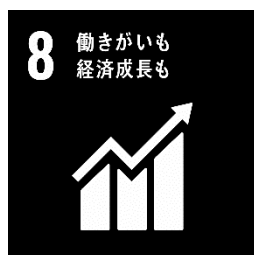
施策を構成する主な事務事業の進捗状況

	事業名	活動指標（単位）	定義		R2	R3	R4	R5	R6
13	①体験活動（大学連携事業）の推進【青少年課】	大学連携によるプログラムの提供回数（回）	青少年課の大学連携事業の全プログラムの提供数 《【 】内は参加した子どもの延べ人数》	目標値	26	27	27	29	16
				実績値	11	23	29	15	15
				達成率	42%	85%	107%	52%	94%
	施策への貢献度	今後の方針	【総合評価】（課長評価） 過去の参加者実績から一部の講座を廃止し、新たな体験講座を企画実施したことで、プログラム数に関する目標は概ね達成することができ、様々な分野の体験機会の提供を行うことができた。 また、参加者数については、教授や学生スタッフの減少等により、講座定員数や申込数が減少したものの、依然として多くの児童・生徒に体験機会の提供を行うことができている。 様々な体験活動機会の提供をとおして、児童生徒の健全育成に寄与している。						
	A	現状維持							
14	②ギャラクシティでの多様な体験活動の提供【地域文化課】	イベント・ワークショップ実施回数（回）	イベントや日々のワークショップ実施回数 （目標値）基本協定で締結しているワークショップの最低実施回数 《①【 】内は、上記のうち地元企業やボランティアとの協働による企画数》 《②【 】内は延べ総参加者数》	目標値	2,200	1,600	1,600	1,800	3,000
				実績値	734	1,653	2,809	2,486	2,565
				達成率	33%	103%	176%	138%	86%
	施策への貢献度	今後の方針	【総合評価】（課長評価） 事業開催数に関係なく、総参加者数はコロナ禍以前の人数に戻ってきている。令和6年度はギャラクシティが30周年を迎え、メイン事業である大ひょうげん、こどもおしごとらんど、ジャパンフェスタや鉄道ミュージアムスペースが記念事業として盛大に開催され大盛況であった。全体を通して様々な学びや体験の機会を子どもたちに提供した。						
	A	現状維持							
15	③あだち放課後子ども教室【青少年課】	学校・実行委員会との話し合いの回数（回）	実施内容の拡充（対象学年拡大・体験プログラム実施等）に向けた話し合いの回数	目標値	240	240	240	240	240
				実績値	151	265	221	234	268
				達成率	63%	110%	92%	98%	112%
	施策への貢献度	今後の方針	【総合評価】（課長評価） 生涯学習振興公社より、積極的に全学年・週5日実施へ戻す方策および体験プログラムの実施についての話し合いを求め、着実に実績値を増やし、目標値を上回った。全学年実施校数や体験プログラム実施校数の増といった実施内容の拡充につながっている。						
	A	現状維持							
16	④ジュニアリーダーの育成【青少年課】	子ども会のリーダーを育成する研修会の開催回数（回）	小学4年～6年生を対象としたジュニアリーダー研修会の開催回数 《【 】内は参加者数》	目標値	66	66	48	48	53
				実績値	14	20	50	46	53
				達成率	21%	30%	104%	96%	100%
	施策への貢献度	今後の方針	【総合評価】（課長評価） 会場数を昨年度よりも1箇所増やしたことで回数の増加となった。なお、ジュニアリーダーのリーフレットを新たに作成したこと、高校3年生・大学生などの若い世代も講師を務めたことが受講生増加の要因であると考えられる。						
	A	現状維持							

施策への貢献度 A: 高い B: 中位 C: 低い

施策群2

妊娠から出産・子育てまで
切れ目なく支える



施策【2-1】

1 施策の概要

担当課 幼稚園・地域保育課

柱立て	自己肯定感を持ち、生き抜く力を備えた人
施策群	2 妊娠から出産・子育てまで切れ目なく支える
施策	2-1 妊娠、出産、子育てへの切れ目のない支援の充実
施策の方向	・子育て支援を充実し、安心して妊娠、出産、子育てができるよう、切れ目ない支援を行います。 ・子育てサービスを適切・円滑に利用できるよう、親子の居場所や交流の場などの情報提供や、悩みの相談環境の充実を図ります。

2 成果指標

指標 1	指標名	子育ては楽しいと感じる割合							
	定義	各保健センター等での3～4か月児健康診査時に行うアンケートで、「子育ては楽しい」と答えた親の割合							
	単位	%	H30	R2	R3	R4	R5	R6	R6
	目標値			75	75	75	75	75	目標値
	実績値		71.6	74.6	73.5	75.5	76.6	76.0	75%
	達成率			99%	98%	101%	102%	101%	
指標 2	指標名	保育コンシェルジュへの相談が役にたった方の割合							
	定義	保育コンシェルジュへ相談した方に対するアンケートで、相談が役にたったと答えた方の割合							
	単位	%	H30	R2	R3	R4	R5	R6	R6
	目標値			97	97	97	97	97	目標値
	実績値		—	98	100	100	98	99	97%
	達成率			101%	103%	103%	101%	102%	

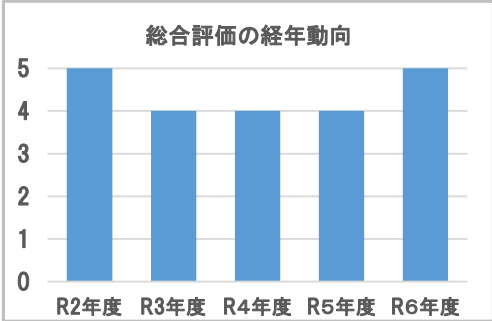
3 担当課における施策評価

【2つの横断的な視点】・子育て支援の質の向上
・ライフステージ間のつながりの強化

施策の達成状況とその要因分析		子・子計画上の2つの視点を踏まえた今後の方向性
【指標1】近年の経済的な子育て支援策の拡充に加え、訪問や電話相談、乳幼児健診などの事業を通じて、不安やストレスを抱える母親へのきめ細やかな支援を強化することで目標を達成できた。 【指標2】イベントに出展するなどの広報活動を強化したことにより、保育コンシェルジュ事業の認知度向上に努めた。また、オンラインによる相談受付予約、個別相談、説明会を実施し、利用者の利便性を高めることで、利用者数の増加につながった。 ※【指標1】子育ては楽しいと感じる割合の令和5年度実績値について、3～4か月児健康診査の受診者数に誤りがあり、74.7%ではなく実際は76.6%であった。 ※【活動指標】乳幼児健康診査実施回数の令和5年度実績値について、実施回数及び受診者数に誤りがあり、404回ではなく実際は413回であった。		【指標1】全妊産婦が対象となる「スマイルママ面接」、「あだち出産・子育て応援事業」、「ファーストバースデーサポート」を着実に実施する。さらに、ハイリスク妊産婦への寄り添い支援を継続し、10月に開設予定の「こども家庭センター」の機能として、必要に応じ関係機関につなぐなど早期対応を適切に行う。今後もより手厚い支援を提供していく。 【指標2】保育施設を探している保護者を対象に、デジタルブックを活用し、写真や図表を多用した分かりやすい資料で説明を行う。また、子育て世帯向けのイベントに出展することで保護者につながる機会を増やすとともに、一人ひとり丁寧に相談に応じていく。

4 子ども家庭部における施策の総合評価

総合評価	①妊婦健康診査やこんには赤ちゃん訪問事業など、産前から区の様々な支援や訪問・相談事業を切れ目なく実施し、育児不安の軽減や子育ての楽しさを感じるきっかけづくりを行っている。引き続き、訪問事業やアンケート等により不安を抱える保護者のニーズを把握し、必要に応じて関係機関と連携し適切な対応をしてほしい。
R6年度	
5	②保育コンシェルジュは、年々相談人数が増加しており需要の高さが見て取れる。オンラインでも相談ができる利便性の高い環境を整備していることで、利用者も気軽に相談しやすく、高い満足度の維持につながっている。引き続き、保護者の不安を軽減し、安心して子育てができるよう一人ひとりに寄り添って相談に応じてほしい。



施策を構成する主な事務事業の進捗状況

	事業名	活動指標（単位）	定義		R2	R3	R4	R5	R6
17	①妊婦健康診査 【保健予防課】	妊婦健康診査受診回数 (回)	母子健康手帳交付時に配付する 14回分の受診票の使用回数(里 帰り等による助成の回数を含む)	目標値	61,120	61,290	61,460	61,630	61,800
				実績値	53,219	51,935	50,301	48,634	50,546
				達成率	87%	85%	82%	79%	82%
				【総合評価】 (課長評価)	妊娠届出数の減少により、妊婦健康診査の受診回数は減少傾向が続いていたが、持ち直してきた。平均受診回数は、11.3回と前年度(11.2回)を少し上回った。妊娠届出時の妊婦全数面接や妊婦訪問時に保健師等が、妊娠中に必要な健診回数をきちんと受診することの大切さを伝えている。妊婦健康診査は、胎児の発育状態の確認や母体の異常を早期発見するために大変重要なものである。				
18	②ファミリー学級 【保健予防課】	ファミリー学級学級数 (数)	ファミリー学級の年間開催学級数 (平日、土曜日、日曜日) 《【 】内は参加者数(実人数)》	目標値	108 [2,580]	108 [2,580]	108 [2,580]	110 [2,700]	110 [2,700]
				実績値	56 [1,257]	44 [1,247]	76 [1,669]	93 [2,107]	91 [2,289]
				達成率	52%	41%	70%	85%	83%
				【総合評価】 (課長評価)	保健センター等では、土曜1日制と平日2日制を実施。さらに、委託による日曜1日制を実施している。パートナーが参加しやすく、赤ちゃんとの生活を一緒に体験し気持ちを共有できる1日制の人気は高い。今後も、参加者のニーズの把握に努め、参加しやすい環境づくりにつなげていく。				
19	③妊産婦家庭訪問 事業 【保健予防課】	妊娠前から生後3か 月までの支援対象者 への訪問件数(件) ※要支援者対象	妊娠届で把握した特に支援が必要な 妊産婦に訪問を実施した件数 《【 】内は対象訪問件数(特に支援が 必要な妊産婦×訪問4回)》	目標値	1,800 [1,800]	1,800 [1,800]	1,800 [1,800]	1,800 [1,800]	1,800 [1,800]
				実績値	1,658 [1,620]	1,513 [1,596]	1,625 [1,632]	1,678 [1,504]	1,603 [1,660]
				達成率	92%	84%	90%	93%	89%
				【総合評価】 (課長評価)	妊娠届及びアンケートの内容から支援が必要な妊婦を把握し、保健師や助産師が訪問や面談・電話などできめ細やかに妊産婦への指導や相談・助言を行っている。令和6年度の「特に支援が必要な妊産婦」は415人で、4回の訪問を目標に訪問した。ハイリスク妊産婦の支援を強化しつつ、妊婦全数面接等により全妊産婦の状況を把握し、育児不安等を軽減できるよう支援していく。				
20	④こにちは赤ちゃん 訪問事業 【保健予防課】	こにちは赤ちゃん訪 問事業訪問件数(件) ※全家庭対象	当該年度に出生した訪問希望者 に対するこにちは赤ちゃん訪問 で保健師・助産師が訪問指導した 件数 《【 】内は希望件数》	目標値	4,260 [4,260]	4,130 [4,130]	4,080 [4,080]	4,000 [4,000]	3,900 [3,900]
				実績値	3,558 [3,746]	3,626 [4,025]	3,562 [3,610]	3,936 [3,941]	4,089 [4,101]
				達成率	84%	88%	87%	98%	105%
				【総合評価】 (課長評価)	コロナ禍でも、訪問希望者に対する訪問率は例年高い割合を維持してきた。訪問を希望されない方には、電話による相談を実施しフォローした。乳児の発育状況と生活状況の把握に加え、コミュニケーションツールとしてエジンバラ産後うつ病質問票(EPDS)を活用し、産後うつ等になりやすい時期に相談にのることで母親の育児不安解消と虐待の未然防止に努めた。				
21	⑤乳幼児健康診査 【保健予防課】	乳幼児健康診査実施 回数(回)	各保健センター等における乳幼児 健康診査の実施回数 《【 】内は受診者数》	目標値	410 [14,430]	410 [14,020]	410 [13,680]	410 [13,410]	410 [13,120]
				実績値	312 [12,558]	328 [10,785]	423 [13,594]	413 [11,973]	420 [11,938]
				達成率	76%	80%	103%	101%	102%
				【総合評価】 (課長評価)	コロナ禍でも、各保健センターでは、乳幼児の健康診査を継続した。それぞれの乳幼児の健康診査は例年受診率も高く、乳幼児の発育・発達状況確認、疾病や異常の早期発見のほか、母親の育児不安の軽減など、総合的な健診の場として重要な役割を果たしてきたことから、今後もこの事業を実施する。				
22	⑥産前・産後家事 支援事業 【子ども政策課】	年間延べ訪問件数 (件)	産前・産後家事支援事業の年間 延べ訪問件数	目標値	450	520	1,000	1,300	1,300
				実績値	520	1,084	1,308	1,026	869
				達成率	116%	208%	131%	79%	67%
				【総合評価】 (課長評価)	令和3年度以降、1,000件以上の訪問実績があったが、令和6年度は、1,000件を下回り、目標達成に至らなかった。産前と産後で利用状況と比較すると、約8割が産後の利用であった。また、家事の補助を実施している「子ども預かり・送迎等支援事業」については、利用件数が増えているため、家事支援は、一定のニーズがあると考えられる。受託事業者や利用者へのアンケートなどを実施し、状況を把握するとともに、他自治体の実施状況も確認し、目標達成に向けた見直しを図っていく。				
23	⑦子育てサロン 【住区推進課】	イベント回数(回)	年間イベント(絵本読み聞かせ・親 子ふれあい遊び・ベビーマッサージ等)実施回数 《【 】内、①は参加者総数、②は① の内、男性参加者数》	目標値	2,620 ①[48,282] ②[309]	2,640 ①[49,631] ②[337]	2,660 ①[51,000] ②[360]	2,680 ①[52,430] ②[390]	2,700 ①[53,860] ②[430]
				実績値	1,132 ①[11,024] ②[166]	2,122 ①[16,865] ②[337]	4,559 ①[46,706] ②[872]	5,093 ①[60,798] ②[2120]	5,614 ①[61,557] ②[2,002]
				達成率	43%	80%	171%	190%	208%
				【総合評価】 (課長評価)	イベント回数を増やしたことで、参加者数も目標値を大きく上回った。商業施設等のサロンでのイベントには、男性参加者も多く家族等で利用する傾向が見られている。引き続き、それぞれのサロンの特性を活かし、0歳児対象、乳幼児親子対象など内容の工夫をイベントを実施していく。また、情報発信等により一層力を入れ、利用者の増加につなげていく。				
24	⑧保育コンサル ジュ 【幼稚園・地域保育 課】	保育コンサルジュ相 談延べ人数(人)	保育コンサルジュ相談延べ人数 《【 】は保育サービス以外の相談 件数、令和3年2月から開始》	目標値	3,150	2,600	3,000	3,850	3,991
				実績値	2,343 [10]	2,793 [36]	3,750 [77]	4,120 [61]	4,823 [69]
				達成率	74%	107%	125%	107%	121%
				【総合評価】 (課長評価)	利用延べ人数は前年度と比べ、区役所窓口は250人、オンライン相談は122人、オンライン説明会は351人増加した。これにより全体では703人増加し、年間の利用延べ人数は4,823人となり、目標値を大幅に上回った。また、子育てや子どもの発育など保育サービス以外の相談についても、前年度比8件増の69件となり、関係機関を紹介しつなぐことで各家庭の状況にあったきめ細やかな相談・ニーズに対応できている。				

施策への貢献度 A:高い B:中位 C:低い

施策【2-2】

1 施策の概要

担当課 保育・入園課

柱立て	自己肯定感を持ち、生き抜く力を備えた人
施策群	2 妊娠から出産・子育てまで切れ目なく支える
施策	2-2 子育てと仕事の両立支援
施策の方向	・多様な働き方を背景とした保護者の保育ニーズに応じた教育・保育サービスを確保します。 ・多様な働き方を可能とするため、パートナーの積極的な家事・育児参加の意識を醸成します。

2 成果指標

指標1	指標名	保育需要に対する待機児童率【低減目標】							
	定義	待機児童数÷保育需要数(各保育施設等の利用児童数+待機児童数) ※4月1日現在							
	単位	%	H30	R2	R3	R4	R5	R6	R6
	目標値			0	0	0	0	0	目標値
	実績値		0.89	0	0.01	0	0.04	0.05	
	達成率			100%	99%	100%	99%	99%	0%
指標2	指標名	学童保育室の待機児童率【低減目標】							
	定義	待機児童数÷入室申請者数 ※4月1日現在 ※R6より待機児童率の時点を5月1日時点に変更する。							
	単位	%	H30	R2	R3	R4	R5	R6	R6
	目標値			0	5.8	3	3	3	目標値
	実績値		5.1	6.1	3.7	4.4	4.8	6.4	
	達成率			0%	157%	68%	63%	47%	0%
指標3	指標名	「男女が対等な立場で意思表示や活動をするのができ、また責任を分かち合っている」と感じている区民の割合							
	定義	「足立区政に関する世論調査」							
	単位	%	H30	R2	R3	R4	R5	R6	R6
	目標値			40	40	40	45	50	目標値
	実績値		31	31	34	30	27	31	
	達成率			78%	85%	75%	60%	62%	50%

3 担当課における施策評価

【2つの横断的な視点】・子育て支援の質の向上
・ライフステージ間のつなぎの強化
子・子計画上の2つの視点を踏まえた今後の方向性

施策の達成状況とその要因分析

【指標1】「足立区待機児童解消アクション・プラン」に基づき 平成27年度から6年間で4,352人分の保育定員を拡大した結果、令和3年4月には待機児童を解消した。それ以降、待機児童がほぼゼロの状態を継続している。

【指標2】民設学童保育室の誘致により受入可能数は増加したが、申請数が増加したことにより、目標値には達していない。

【指標3】前年度から4ポイント改善したが、目標値を19ポイント下回った。男性の家事・育児参加を促す講座や事業者向けの育休制度の講座を複数回実施したこと、男女の固定観念や役割分担意識の解消に向けた啓発を積極的に行ったことが要因と考える。また、国連女性差別撤廃委員会による8年ぶりの日本政府審査が行われたこともあり、関心が高まったと推察される。

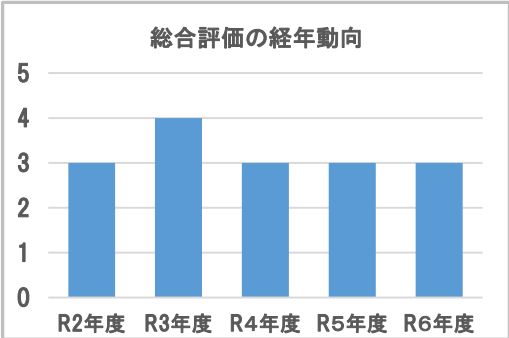
【指標1】引き続き、地域ごとの保育ニーズを詳細に分析し、人口推計や集合住宅建設時の事前協議の結果等を踏まえ、保育需要数を見極めながら適切なサービス供給量の確保に努める。

【指標2】学童保育室以外の居場所として、放課後子ども教室との一体的運用や児童館特例利用の活用促進など、放課後の居場所を自由に選択できるように総合的に居場所の確保を推進していく。

【指標3】子どもの成長や家庭の状況に応じた男性の家事・育児参加を支援する講座の実施及びイベント内や団体に対しアンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)解消について啓発することで、男女が責任を分かち合う意識づけを行い、積極的な家事・育児参加を促していく。

4 子ども家庭部における施策の総合評価

総合評価	①待機児童の解消に近い状態を維持していることは、大いに評価できる。引き続き保育需要を見極め、適切な保育定員の確保と維持をしてもらいたい。
R6年度	②学童保育室の待機児童解消にむけ、民設学童保育室の誘致により受け入れ可能数を増加させたことは評価できるが、依然として待機児童は一定数存在している。地域ごとの需要にあわせた学童保育室の整備やそれ以外の方法も検討のうえ、総合的に居場所の確保を実施してほしい。
3	③世論調査結果をみると、自己表現や家事育児に対する責任について男女対等であると感じていない区民が未だに多いことがわかる。各イベントや講座、SNS等による周知啓発を継続的に実施し、パートナー同士が責任を共有して積極的に家事・育児をする意識が定着するよう働きかけてほしい。



施策を構成する主な事務事業の進捗状況

	事業名	活動指標（単位）	定義		R2	R3	R4	R5	R6
25	①保育施設等の整備 【私立保育園課】	保育施設整備数（累計件）	令和2年～6年度における、認可保育所、認証保育所、小規模保育の新規整備及び定員見直しを伴う改修等の実施件数 ※「足立区待機児童解消アクション・プラン（令和元年8月改定版）」に基づく整備予定件数	目標値	0	3	3	5	5
				実績値	1	4	4	5	7
				達成率	0%	133%	133%	100%	140%
	施策への貢献度	今後の方針	【総合評価】（課長評価）令和5年度に引き続き、令和6年度も老朽化した保育園舎の建替えが完了し、1園が新たな園舎となった。安全性の向上や保育環境の改善により、ハード面での保育の質向上につながったと同時に、保育士の業務効率向上により、ソフト面での保育の質向上にもつながり、より良い保育に向けた保護者ニーズに貢献できた。						
26	②保育士確保・定着対策 【私立保育園課】	就職相談会の実施回数（回）	就職相談会等の実施回数 《【 】内は参加者数》	目標値	4	2	2	4	8
				実績値	1	2	1	1	1
				達成率	25%	100%	50%	25%	13%
	施策への貢献度	今後の方針	【総合評価】（課長評価）令和6年度においては前年度比4社増の24社が参加。48名が来場し、内定数は前年度比2名増の9名であった。ハローワークや参加事業者と連携して各種SNS等で周知を行ったほか、会場レイアウトを見直してより多くの参加事業者を受け入れたことで求職者とのマッチングが強化されたものと分析している。引き続きハローワーク・東京都と連携し、私立保育施設における保育士確保・定着を支援していく。						
27	③学童保育室の運営 【学童保育課】	学童保育室受入可能数累計（人）	区直営、運営委託（指定管理、住区センター）、民設運営（学童クラブ補助対象分）の受入可能数累計 ※令和3年度より受入可能数増分から累計へ変更	目標値	90	210	340	390	430
				実績値	120	242	392	457	497
				達成率	133%	115%	115%	117%	116%
	施策への貢献度	今後の方針	【総合評価】（課長評価）待機児対策のために、学童需要が多い地域に対して民設学童保育室の公募を実施したが、1室増に留まった。累計目標は達成したが、待機児対策という区の喫緊の課題解決に向けて、校内学童保育室の整備を最優先に学童保育室の量の確保を目指していく。						
28	④ワーク・ライフ・バランスの推進 【多様性社会推進課】	WLBを推進するため区内企業へ働きかけた件数（件）	架電・DM・訪問など働きかけた件数※10人以上、300人未満の区内企業数＝1,600社 ※令和2年度目標値450は働きかけをして興味を示す見込数	目標値	450	2,000	2,000	－	2,000
				実績値	1,889	1,864	1,877	－	374
				達成率	420%	93%	94%	－	19%
	男性向け講座・イベントの実施回数（回）	男性向け講座・イベントの実施回数 《【 】内は参加者数》		目標値	10	10	10	10	11
				実績値	3	8	4	5	6
				達成率	30%	80%	40%	50%	55%
	施策への貢献度	今後の方針	【総合評価】（課長評価）令和6年度は、WLBの制度見直しのため、認定企業の新規募集は行わなかったが、既存認定企業等にWLB推進につながる講座を案内した。男性向け講座は、委託講座の開催数が20回上限であることや講座テーマが多岐に渡るため、ほぼ横ばいの6回にとどまった。これまでWLB認定企業限定で支援メニューを提供してきたが、区内中小企業全体に対象を拡充したため、積極的に周知しWLBの推進を図る。						

施策への貢献度 A:高い B:中位 C:低い

施策【2-3】

1 施策の概要

担当課 こども家庭相談課

柱立て	自己肯定感を持ち、生き抜く力を備えた人		
施策群	2 妊娠から出産・子育てまで切れ目なく支える		
施策	2-3 困難を抱える子育て家庭への支援と虐待の防止		
施策の方向	・児童虐待の発生予防、早期発見、早期対応等を図るため、地域におけるきめ細やかな体制の充実を進めます。 ・困難を抱える子育て家庭の悩みや相談に応じ、経済的支援をはじめ、親と子どもに寄り添った様々な支援を行います。		

2 成果指標

指標1	指標名	虐待対応終結率							
	定義	虐待解決数(児童相談所への送致や訪問指導により虐待を起こす要因が解消された数)÷虐待件数							
	単位	%	H30	R2	R3	R4	R5	R6	R6
	目標値			80	80	80	80	80	目標値
	実績値		73	66	65	72	59	62	80%
指標2	達成率			83%	81%	90%	74%	78%	
	指標名	高等職業訓練促進給付金受給後の正規雇用者数							
	定義	ひとり親家庭を対象とする高等職業訓練促進給付金事業を活用後、就労(正規雇用)した方の数							
	単位	人	H30	R2	R3	R4	R5	R6	R6
	目標値			15	17	10	8	8	目標値
	実績値		14	15	5	8	6	3	25人
	達成率			100%	29%	80%	75%	38%	

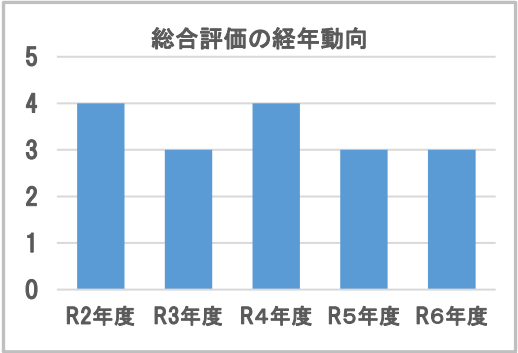
3 担当課における施策評価

【2つの横断的な視点】・子育て支援の質の向上
・ライフステージ間のつなぎの強化

施策の達成状況とその要因分析		子・子計画上の2つの視点を踏まえた今後の方向性	
【指標1】虐待対応終結率は前年度比で横ばいではあるものの、システム構築等により、虐待対応に充てられる時間が増えたことでより綿密かつ丁寧な対応を実施することができている。また、虐待件数(1,415件)は前年度(1,530件)と比べて減少している。	【指標2】高等職業訓練促進給付金受給者のうち、6人が養成校を卒業し、資格試験合格の6人は3人が正規、1人は准看護師から正看護師を目指し専門学校に進学している。残りの2人は現在就職活動中である。働き方やライフスタイルが多様化していることもあり、正規雇用の人数としては目標を下回る結果となった。	【指標1】虐待事案の複雑化かつ多様化に対応するため、こども家庭ソーシャルワーカーの専門職の活用や資格取得等をすすめ、児童虐待の予防、早期発見、再発防止に向けた取組を引き続き継続していく。	【指標2】就職する上で有利となり、生活の安定に資する資格の取得を促進し、経済的自立につながるよう、ひとり親家庭の方への就労を支援していくとともに、就労形態やライフスタイルに多様化に対応できるよう、国や東京都で実施している在宅就業推進事業などの情報発信も強化していく。

4 子ども家庭部における施策の総合評価

総合評価	①虐待事案が複雑かつ多様化しているなか、システム構築等の運用変更により虐待対応時間を捻出し解決率を上げていることは、目標に達していないものの一定の評価ができる。今後も、多様化する子育て世帯の悩みや困難に早い段階で寄り添い、切れ目のない継続的な支援をしてほしい。	
R6年度	②豆の木メールでの情報発信強化をしたうえで正規雇用者数が減少した事を考えると、情報の平易化、発信頻度の適切化等の工夫や、それ以外の方法も検討していく必要がある。正規雇用はひとり親家庭の経済的自立につながるため、就労支援事業の積極的な強化や就労・資格取得に関する新規講座等の実施により正規雇用者が増えることを期待する。	
3		



施策を構成する主な事務事業の進捗状況

	事業名	活動指標（単位）	定義		R2	R3	R4	R5	R6
29	①きかせて子育て訪問事業 【子ども政策課】	支援回数（回）	きかせてサポーターが利用者宅で支援を行った年間延べ支援回数 《【 】内は利用者数》	目標値	102 【30】	120 【30】	300 【150】	210 【94】	102 【30】
				実績値	145 【42】	283 【148】	206 【93】	145 【63】	278 【138】
				達成率	142%	236%	69%	69%	273%
	施策への貢献度	今後の方針	【総合評価】（課長評価）令和5年度と比較して支援回数、利用者数ともに増加し、目標を達成した。1回の訪問で終了する世帯もあるが、半年以上継続して訪問する世帯もあることから、世帯の状況に合わせながら訪問しており、各世帯の不安や悩みに寄り添うことが一定程度できていると考える。引き続き、受託事業者と連携しながら、子育て世帯の孤独・孤立を防止に繋げていく。						
30	②メール配信事業「新米ママパパの子育てブログ」 【こども家庭相談課】	配信記事数（本）	メール配信する配信記事（ブログ調記事）の種類（数） 《【 】内は登録者数》	目標値	90 【12,000】	90 【13,000】	90 【14,000】	90 【15,000】	90 【15,000】
				実績値	94 【12,445】	94 【13,543】	94 【14,586】	94 【15,627】	94 【17,245】
				達成率	104%	104%	104%	104%	104%
	施策への貢献度	今後の方針	【総合評価】（課長評価）多様化する子育て世代に対応するため、配信内容を適宜確認しながら、定期配信を行っている。引き続き、増加しているブログ登録者へアンケートを実施し、それらを踏まえ内容の充実を図っていく。						
31	③児童扶養手当 【親子支援課】	児童扶養手当認定件数（件）	児童扶養手当認定請求に対する認定件数	目標値	854	845	836	827	820
				実績値	872	750	677	654	705
				達成率	102%	89%	81%	79%	86%
	施策への貢献度	今後の方針	【総合評価】（課長評価）足立区における0～18歳の人口減少に伴い、年々児童扶養手当の認定件数も減少していたが、令和6年度においては前年度比で51件増加した。引き続き、対象となる方に手当が行き渡るように制度を広く周知していく。						
32	④ひとり親家庭応援メールの配信 【親子支援課】	メール配信の情報件数（件）	豆の木メールで配信した情報の件数 《【 】内は登録世帯数》	目標値	220 【2,800】	240 【3,200】	240 【3,500】	250 【3,500】	300 【3,500】
				実績値	225 【3,094】	207 【3,674】	212 【4,093】	210 【4,509】	279 【4,858】
				達成率	102%	86%	88%	84%	93%
	施策への貢献度	今後の方針	【総合評価】（課長評価）厚生労働省や東京都等の情報だけでなく、親子支援課が行う就労支援事業や庁内の関連事業・イベントに係る情報発信を増やしたため、昨年度の回数を大きく上回った。引き続き、情報発信を強化し、交流・相談・就労の各支援事業の活性化を図っていく。						
33	⑤就労のための資格取得支援 【親子支援課】	ひとり親家庭向け就労支援事業を活用した人数（人）	ひとり親家庭を対象にした就労支援給付金補助をはじめ、就労セミナー・講座等区が行う就労支援事業を活用した延べ人数	目標値	200	225	160	190	200
				実績値	150	152	194	190	100
				達成率	75%	68%	121%	100%	50%
	施策への貢献度	今後の方針	【総合評価】（課長評価）就労支援事業はハローワークにも同内容のメニューがあることや、就労形態の多様化などの影響もあり、目標を大きく下回る結果となった。引き続き、関係機関が実施するセミナー・講座等の周知と利用促進を図るとともに、相談者の状況に応じた多様な働き方への支援をしていく。						
34	⑥（区民向け）児童虐待予防講座の実施 【こども家庭相談課】	講座の開催回数（回）	児童虐待防止啓発事業（子育て交流講座（NP講座）、イライラしない子育て講座、講演会、オレンジリボンキャンペーン等）の実施回数 《【 】内は参加者数》	目標値	12 【120】	12 【120】	12 【120】	12 【100】	13 【164】
				実績値	7 【71】	7 【72】	11 【91】	13 【139】	14 【138】
				達成率	58%	58%	92%	108%	108%
	施策への貢献度	今後の方針	【総合評価】（課長評価）オレンジリボンキャンペーンについては、新たに江北駅でも啓発を行うとともに早朝の時間帯や平日にも2日間実施した。また、虐待予防講座についても、予定通り開催することができ、目標を達成することができた。引き続き、虐待の早期発見や予防に努める。						
35	⑦児童虐待対応 【こども家庭相談課】	児童虐待受理件数（件）	こども家庭相談課における児童虐待に関する受理件数	目標値	900	1,100	1,100	1,181	1,345
				実績値	1,053	1,028	1,464	1,530	1,415
				達成率	117%	93%	133%	130%	105%
	施策への貢献度	今後の方針	【総合評価】（課長評価）児童虐待受理件数は減少している。児童相談所から送致される面前DV（心理的虐待）等の軽微な事案が減少している一方、親になりきれない不安や孤立のストレスなど、様々な背景を起因とする通告は増加傾向にあるため、引き続き複雑化する虐待事案への体制強化を進めていく。						

施策への貢献度 A: 高い B: 中位 C: 低い

施策【2-4】

1 施策の概要

担当課 都市建設課

柱立て	自己肯定感を持ち、生き抜く力を備えた人
施策群	2 妊娠から出産・子育てまで切れ目なく支える
施策	2-4 安全・安心に子育てのできる生活環境の整備
施策の方向	妊産婦、子育て家庭等、全ての人たちが安全安心に外出できるよう、ユニバーサルデザインの視点に立ったまちづくりを推進していきます。

2 成果指標

指標1	指標名	ユニバーサルデザイン推進計画の個別事業の評価点の平均値※1【子ども子育てに関する事業】							
	定義	推進計画、「柱3 便利に生活できる『まちづくり』」のうち、施策3-(1)から3-(4)に位置付けられた一部の事業のうち、「だれもが利用しやすい施設や環境等を整備する」ための個別事業の5段階評価の評価点の平均値							
	単位	点	H30	R2	R3	R4	R5	R6	R6
	目標値			4.0	4.0	4.1	4.1	4.2	目標値
	実績値		4.1	3.88	4.22	4.44	3.75	4.00	4.2点
達成率									
97%									
106%									
108%									
91%									
95%									
※1【子ども子育てに関する事業】									
3-(1)-①安全な道路環境の整備									
3-(2)-①公共建築物のユニバーサルデザインの推進									
3-(3)-①区立公園等のユニバーサルデザインの推進									
3-(4)-②民間建築物のユニバーサルデザインの誘導									

指標2	指標名	よく行く、または行きたい公園がある区民の割合							
	定義	世論調査で「よく行く、または行きたい公園がある」と答えた区民(18～40歳代)の割合(そう思う、どちらかといえばそう思うの合計) (算出式) A÷B A:世論調査で「よく行く、または行きたい公園がある」と答えた区民(18～40歳代)の数 B:世論調査に回答した区民(18～40歳代)の数 ※令和3年度より調査対象が20～40歳代から18～40歳代へ変更 ※令和4年度から令和6年度目標値を50%から52%へ変更							
	単位	%	H30	R2	R3	R4	R5	R6	R6
	目標値			50	50	50	51.1	51.5	目標値
	実績値		44.3	49.8	50.3	50.7	46.8	51.0	52%
達成率									
100%									
101%									
101%									
92%									
99%									

3 担当課における施策評価

【2つの横断的な視点】・子育て支援の質の向上
・ライフステージ間のつなぎの強化
子・子計画上の2つの視点を踏まえた今後の方向性

施策の達成状況とその要因分析

【指標1】区のユニバーサルデザイン施策の評価・改善など進行管理をスピーディーかつ分かりやすく行うため、令和5年度同様対象施策を絞り集中的に評価した。

令和6年度の評価対象施策は、令和5度に比べ、改修・改築のペースが上がっている点や民間建築物に対するユニバーサルデザインの誘導を積極的に行った点などが評価され、前年度よりも評価が向上した。一方、意見聴取のもと、更なる改善を進めるべきとの評価もあり、評価点の平均値は目標を下回る4.0点となった。

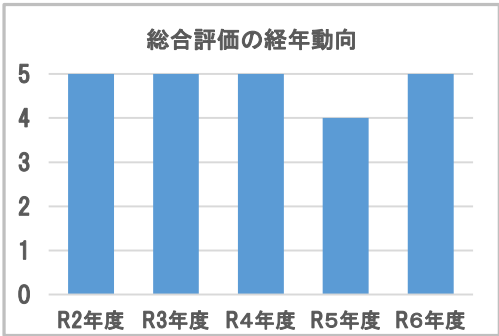
【指標2】「よく行く、または行きたい公園がある」と答えた区民の割合は目標値よりわずかに下回った。この回答には地域差が見られる。綾瀬、舎人などの規模の大きい公園や、特色のある公園が配置されている地区は6割を超えているが、公園の規模が小さく数の少ない千住、西新井地区などは4割に届かず、全体として低くなった。

【指標1】子育て世代も安心して利用できるよう、ユニバーサルデザインの視点を持ちながら、区民の生活や生命を守る重要な公共施設の整備を進めていく。引き続き、スピーディーかつ分かりやすい評価を行い、より効果的・効率的に推進していく。

【指標2】ユニバーサルデザインや防災、公園の誘致圏の観点から、他部署と連携をとりながら計画的に公園整備を進めていく。公園整備前の意向調査において、HPやQRコードの活用に加え、現地調査など地元へのヒアリングを行い意見を反映した公園整備を進めていく。また、緑の協力員へのモニタリング調査を施行し区民目線を調査の上、今後の取り組みに活かしていく。

4 子ども家庭部における施策の評価

2次評価	①ユニバーサルデザインの視点に立った公共施設の管理整備や民間施設に対するユニバーサルデザインの誘導等は、誰もが利用しやすい施設の整備に繋がっており評価できる。引き続き、地域の方や利用者の意見に寄り添い、安心して子育てができるまちづくりを推進してほしい。
R6年度	
5	②パークイノベーション計画に基づくテーマのある公園整備や、遊具の日常点検等を滞りなく行い安全な遊具を維持していること等が区民の満足度に現れている。今後も、地域や関係所属と連携し安全で安心して利用できる区民目線の公園整備を実施してほしい。



施策を構成する主な事務事業の進捗状況

	事業名	活動指標（単位）	定義		R2	R3	R4	R5	R6
36	②公園等遊具の安全対策 【東部道路公園維持課・西部道路公園維持課】	全遊具の日常点検遊具数(基)	月1回遊具点検表に基づき点検し、修繕の要・不要・経過観察の判定がなされる遊具数(点検の際に簡単なメンテナンスにより安全使用が可能となる)※令和4年度からカウントの仕方を変更	目標値	2,108	2,106	2,415	2,460	2,115
				実績値	2,108	2,106	2,415	2,390	2383
				達成率	100%	100%	100%	97%	113%
	施策への貢献度	今後の方針	【総合評価】(課長評価) 公園維持管理作業委託による点検と専門業者による点検の両方を実施することで、安全性を損なうことが無く遊具を使用していただけだ。引き続き安全な遊具の維持管理に努めていく。						
37	③パークイノベーションの取り組みの推進 【パークイノベーション推進課】	改修・新設した公園数(か所)	足立区パークイノベーション推進計画に基づき、改修・新設した公園数	目標値	49	59	69	79	89
				実績値	51	55	60	69	76
				達成率	104%	93%	87%	87%	85%
	施策への貢献度	今後の方針	【総合評価】(課長評価) パークイノベーション計画に基づき、地域の方が親しみやすいように「遊具遊びができる」「池のあつちい」など公園にテーマを設け東和、保木間、青井地域の公園整備を行った。						
38	④あだち子育てガイドブックの普及 【子ども政策課】	あだち子育てガイドブックの配布場所数(か所)	あだち子育てガイドブックを配布する場所(子育てに関連する機関や施設の窓口等)の箇所数 《【 】内は配布冊数》	目標値	53	58	70	72	73
				実績値	53	69	74	67	68
				達成率	100%	119%	106%	93%	93%
		区ホームページのあだち子育てガイドブックアクセス数(回)	区ホームページのあだち子育てガイドブックへのアクセス数	目標値	3,700	3,800	3,900	4,000	4,000
				実績値	3,713	3,953	3,977	4,047	6031
				達成率	100%	104%	102%	101%	151%
	施策への貢献度	今後の方針	【総合評価】(課長評価) 全庁で実施している妊娠・出産・子育てに関する情報を、子育て世代に向けて周知している。令和5年度版では、対象世帯が手に取りやすいよう、保育園に関する手続きのオンライン申請やベビーシッター支援事業などの新規事業を特集ページに掲載した。配布場所は、民間企業に設置協力を継続したが、目標達成には至らなかった。アクセス数は、イベントでのPRが増加につながったと考える。庁内所属に限らず、子育て世代が利用する商業施設などに設置協力を行うとともに、SNSなどを活用して電子版へのアクセスにつなげていく。						
	施策への貢献度	今後の方針	【総合評価】(課長評価) 全庁で実施している妊娠・出産・子育てに関する情報を、子育て世代に向けて周知している。令和5年度版では、対象世帯が手に取りやすいよう、保育園に関する手続きのオンライン申請やベビーシッター支援事業などの新規事業を特集ページに掲載した。配布場所は、民間企業に設置協力を継続したが、目標達成には至らなかった。アクセス数は、イベントでのPRが増加につながったと考える。庁内所属に限らず、子育て世代が利用する商業施設などに設置協力を行うとともに、SNSなどを活用して電子版へのアクセスにつなげていく。						

施策への貢献度 A: 高い B: 中位 C: 低い